

国語科指導案

日時 平成29年1月27日（金）3校時
児童 2年生
授業者
授業場

1 単元名 「作って紹介！じまんのおもちゃハンドブック」～中心教材「きつつき」～

2 単元の目標

自分で作った「じまんのおもちゃ」の作り方を説明する言語活動を通して、時間・事柄・構成の順序に気を付けながら、内容の大体を読むことができる。（中心となる指導事項イ 関わる言語活動例ウ）

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、自分で作ったおもちゃの作り方を説明する言語活動を通して、時間・事柄・構成の順序やそれらを表す言葉に着目しながら、内容の大体を読む力を高めることや、本のおもしろさを感じ、日常の読書生活を楽しむ態度を養うことを目指している。本単元で扱う中心教材「きつつき」は「1・(1)・①」などの番号に階層性を持たせて詳しい説明手順を示していることや簡潔で明確な順序・言葉を基に、おもちゃ作りへの興味を喚起しながら読み進めやすい作品である。また、「作り方」を説明する文章においては、写真に付随した番号と文章が関連付けて述べていることにより、作業手順が一層明確なものになっている。さらに、「上手なうごかし方」を説明する部分では、実際に作った人が困りそうなこと（失敗の原因）を述べていたり、「ほかのあそび方」を説明する部分では、様々な遊び方を示したりするなど、作る立場の相手が、よりおもちゃを楽しむことができるような表現の工夫がなされている。

これらのような作品の特徴から、物事の順序性に気を付けるとともに、それらを表す言葉や写真と関連付けながら、読むことに適した教材であると言える。

(2) 目指す児童・生徒像

児童はこれまでに、「読むこと」領域（説明的文章）において次のような活動を体験し、言葉の力を身に付けてきた。

これまでに児童が体験した活動	それによって獲得した言葉の力	本単元において重点的に獲得させたい言葉の力
○植物のひみつについて、簡単な「問い」と「答え」の関係に着目しながら読んで、感想を交流する活動 ○生き物の一生について、「時」「場所」「大きさ」の順序に着目しながら読んで、紹介する活動	○文章の 大体的内容 を捉えて読む力 ○ 順序を表す言葉 に着目して読む力 ○時間や話題、構成などの 事柄の順序 を捉えて読む力 ○段落で取り上げられている 写真と文章 を関連付けながら読む力	○見出しや説明の階層性と写真を関連付けながら、事柄の順序を的確に捉えて読む力

このような児童の実態から、本単元における目指す児童像を、自分が作ったおもちゃを「ハンドブック」にして説明する「単元を見通す言語活動」を体験しながら、自ら楽しんだり知識を得たりするために読むことを通して、時間・事柄・構成の順序に着目して文章の内容を捉えて読む力を高めていくといったような「言葉の力」の幅を広げていく姿とした。

(3) 指導観

「認識から思考へ」「思考から表現へ」のプロセスを重視した言語活動の充実

本単元を通して、おもちゃハンドブックを作成していくこととし、ハンドブックの中に説明書（おもちゃの「作り方」を中心に、「使う材料」や「遊び方」）を書いていくことを通して、子供が言語活動自体に「楽しさ」や「親しみやすさ」を感じることができるよう学習過程をデザインしていく。説明書は的確な順序で作り手（相手）に伝える表現様式であるという特性を持っていると同時に、児童がこれまでの生活経験の中で目に触れたことがある身近な対象物でもあると考える。そして、そのおもちゃハンドブックのページを自分なりに蓄積していったり、順序を入れ替えたりしていったりできる構成にし、それが徐々に完成に近づいていくことが実感できるようにする。このような工夫により、「認識から思考へ」「思考から表現へ」という言語活動の充実が図られてくるはずである。

これらを踏まえ、次のような「見方・考え方を内包する思考」を段階的に引き出し、目指す児童の姿に繋げていくこととする。以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

目指す獲得させたい言葉の力

時間・事柄・構成の順序に気を付けながら、内容の大体を捉えて読む力

国語科において目指す「対話的な学び」

引き出したい「ねらいとする見方・考え方」を内包する思考

- ・「用意する材料」「作り方」「上手な動かし方」「他の遊び方」という内容になるのかな？
- ・1・(1)・①という記号は、それぞれ何を表しているのかな？順番の中にも大きさがあるんだね！
- ・「作り方」のところは一番大事そうだな。どうやって説明していけばよいのかな？写真と文章を上手に組み合わせているね！
- ・「作り方」のところは、順序を表す言葉や「どの時に、どんな様子（ものの長さなど）」が書かれているから、作る人（相手）がとてもわかりやすい文章になっているんだね！

本単元において目指す児童の姿

①単元を見通すことができる言語活動と一単位時間の言語活動を有機的に結びつける～Ⅰ

本単元においては、言語活動例ウ「事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読む言語活動」を取り上げて、それを具現化した「単元を見通すことができる言語活動」を「作って紹介！じまんのおもちゃハンドブック」とした。そのことにより、おもちゃハンドブックの「全体の内容」や「綴じていく順序」等を考える必要性と、中心教材「きつつき」を読んで、「説明の順序」や「説明の内容」、「手順を説明する写真の活用方法」等についての理解と、それらについての自分の考えを明確にしていく必然性が生まれ、単元と一単位時間が有機的に結び付いていく（大きな課題に直接関連する一単位時間の小課題）。なお、本単元においては、「作り方の“説明”」が「作ったおもちゃの“紹介”」という「じまん」に関わる同義のものとして捉えていく。

②ねらいとする「見方・考え方」を働かせる核となる「文章・表現」への着目を促す教師のかかわり～Ⅱ

児童が「順序性を表す核となる言葉やその構成」等に着目できるようにするためには、児童の思考を段階的に引き出しながら、ねらいとする「見方・考え方」を内包する思考を働かせていくことができるようにしていく必要がある。そのため、一単位時間において次のような教師のかかわりを通して「核となる文章・表現」への着目を促していく。

時	核となる文章・表現	主な教師のかかわり
3	「用意するざいりょう」「作り方」「上手なうごかし方」「ほかのあそび方」	「どのような内容が必要か」「ページはどのような順番に並べたらよいのか」等を問いながら根拠を引き出したり、児童相互の考えの比較を促したりする。
4	「1・2・3・4」(大きな順序)「(1)・(2)・(3)」(細かい順序)	「1・(1)などの記号は必要か」「ある場合とない場合ではどのような違いがあるのか」等を問い、板書を基に順序を表す記号の階層性に気付けるようにする。
5	「①・②・③・④・⑤」「時」「様子」を表す言葉	「①～⑤の記号は必要か」「どんな意味があるのか」等を問いながら交流し、板書を基に写真と文章の関連性に気付けるようにする。
6・7	「もの(ばね)の特徴を生かしたおもちゃの楽しみ方」	「なぜ材料(ばねなど)のを中心に書く必要があるのか」等を問いながら交流し、板書を基に作り手(相手)を意識した伝え方に気付けるようにする。

4 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語に関する知識・理解・技能
ア おもちゃを作って紹介するために、事物の仕組みについて説明した本や文章を読もうとしている。	ア 中心教材の大まかな内容を捉えながら読んでいる。 イ 中心教材に関わる2つの文章を比較しながら、時間的な順序や事柄の順序に気を付けて読んでいる。 ウ 中心教材に関わる2つの文章を比較しながら、具体的な内容を説明する文章の表現や構成上の順序に気を付けて読んでいる。 エ 中心教材に関わる2つの文章を比較しながら、順序性を含めた文章の内容と自分の経験を結びつけながら読んでいる。 オ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を時間・事柄・構成上の順序等に気を付けて読んでいる。	ア 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いて本や文章を読んでいる。

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学習活動	手立て
<p>見出しの順序が的確なおもちゃハンドブックとそうではないものを提示する。</p>	<p>1・2時間目</p> <p>大きな言語活動「作って紹介！じまんのおもちゃハンドブック」についての見通しを持ち、学習計画を立てる。 関ア</p>	<p>「じまんのおもちゃハンドブック」(説明書)を作成するための計画を交流し、ページの順序や内容を考えていく必要性が生まれるようにする。 I</p>
<p>おもちゃハンドブックの各ページの見出しを考え、順序通りに整理する時間を保障する。</p>	<p>3時間目</p> <p>中心教材「きつつき」を読み、「おもちゃハンドブック」に綴じていく各ページの見出しやその順序を決める。 読ア・言ア</p> <p>獲得する言葉の力～説明文の力～相手のことを考えた時間の順序で説明する</p>	<p>自分で考えたページの順番やその根拠について問い、他者と交流することで、核となる表現「見出しの内容やその順序」に着目しながら、考えの妥当性を捉え直すことができるようにする。 II</p>
<p>見出しや階層性を表す記号がある文章と、ない文章を提示する。</p>	<p>4時間目</p> <p>中心教材「きつつき」を読み、それぞれのページの内容(書き表し方)を決める。 読イ</p>	<p>自分が選んだ文章とその根拠について問い、核となる表現「1・2・3・4」(大きな順序)「(1)・(2)・(3)」(細かい順序)等に着目しながら考えの妥当性を捉え直すことができるようにする。 II</p>
<p>おもちゃハンドブックの各ページに数記号と見出しを書いて綴り、「用意する材料」(1ページ目)を書く時間を保障する。</p>	<p>5時間目【本時】</p> <p>中心教材「きつつき」を読み、「作り方」のページの伝え方を決める。 読ウ</p> <p>獲得する言葉の力～説明文の力～1・(1)の順に説明のまとまりを作っていく、大きいまとまりはより短い言葉で表す</p>	<p>自分が選んだ文章とその根拠について問い、核となる表現「写真(最も詳しい順序①・②・③・④・⑤)と文章の結びつき」や「時」「様子」を表す言葉等に着目しながら考えの妥当性を捉え直すことができるようにする。 II</p>
<p>順序を表す言葉と写真の関連性が高い文章と、低い文章を提示する。</p>	<p>6時間目</p> <p>中心教材「きつつき」を読み、「おもちゃができた後の工夫や楽しみ方」についての伝え方を決める。 読エ</p>	<p>自分が選んだ文章とその根拠について問い、核となる表現「ものの特徴を生かした楽しみ方」に着目しながら考えの妥当性を捉え直すことができるようにする。 II</p>
<p>おもちゃハンドブックの「作り方」(2ページ目)を書く時間を保障する。</p>	<p>獲得する言葉の力～説明文の力～写真と文章の記号(①・②・…)を合わせながら、「いつ?」「どんな状態?」かを順に表示</p>	<p>自分が選んだ文章とその根拠について問い、核となる表現「ものの特徴を生かした楽しみ方」に着目しながら考えの妥当性を捉え直すことができるようにする。 II</p>
<p>おもちゃや材料(ばね等)の特徴を生かして説明している文章と、材料から離れて説明している文章を提示する。</p>	<p>7・8・9時間目</p> <p>「事柄の順序を表す言葉や記号」や「写真との関連」等に着目しながら、様々な本や文章を読み、自分が作った「じまんのおもちゃ」についてまとめる。 読オ</p>	<p>学習計画を立てて見通しを持ってきた大きな課題について自分たちの力で解決し、「じまんのおもちゃ」について伝えることができるようになったことを価値付けし、言葉との関わり方を広げることができたことについての実感を持つことができるようにする。 I</p>
<p>おもちゃハンドブックの「上手な動かし方」「他の遊び方」(3・4ページ目)を書く時間を保障する。</p>	<p>獲得する言葉の力～説明文の力～おもちゃや、使う「もの」の特徴が伝わるように書く</p>	<p>学習計画を立てて見通しを持ってきた大きな課題について自分たちの力で解決し、「じまんのおもちゃ」について伝えることができるようになったことを価値付けし、言葉との関わり方を広げることができたことについての実感を持つことができるようにする。 I</p>
<p>既得の「説明文の力」を選択して言語運用することで、自ら読む力を発揮することができたことへの自覚化を図っていく時間を保障する。</p>	<p>獲得する言葉の力～説明文の力～既得の「説明文の力」を選択して言語運用することで、自ら読む力を発揮することができたことへの自覚化を図っていく時間を保障する。</p>	<p>学習計画を立てて見通しを持ってきた大きな課題について自分たちの力で解決し、「じまんのおもちゃ」について伝えることができるようになったことを価値付けし、言葉との関わり方を広げることができたことについての実感を持つことができるようにする。 I</p>

6 本時について(5/9時間目)

(1) 本時の目標

中心教材「きつつき」を基にした2つの文章を比較し、適した言葉の使い方について交流する活動を通して、視覚的な要素(写真)と具体的な内容を説明する文章の表現や構成上の順序の関連やその工夫などに気を付けて読むことができる

(2) 本時における研究の視点

本時においては、「見方・考え方」を内包した思考を引き出す主な「対話的な学び」の工夫と、それを支える「主体的な学び」を以下のように位置付けていく。

個の考えや立場を明確する「文章・表現」の提示～A-①

おもちゃの「作り方」を説明した2つの文章を提示し、どちらの書き方が紹介する文として相応しいかを問うことで、表現・構成についての大体の視点を持って自分の立場とその理由を考えることができるようにする。

ねらいとする「見方・考え方」を引き出す「核となる文章・表現」への着目を促す教師のかかわり～II

「写真と文章を関連させる書き方」「それを支える言葉」が欠落している箇所に着目できるように個や少人数で思考した内容を取り上げて関連付けていくことで、的確な順序で伝えるための表現・構成等についての言葉の関係性を捉え直すことができるようにする。

獲得した言葉の力を自覚化したり意識的に言語運用したりする場の設定～A-②

おもちゃハンドブックの「作り方」(2ページ目)を書く時間を保障し、「事柄の順序を表す言葉や記号」と「写真」を関連させて表現しながら伝える方法についての考えを深めることができるようにする。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導(▲)
<p>1 前時までの活動を振り返り、本時の学習の見通しを明確にする。</p> <p>前の時間は、それぞれのページをどうやって書いていくかがわかったよ。</p> <p>今日は一番大事な「作り方」のページを書いていくんだっね。</p> <p>「作り方」をうまく伝えている文章はA?B?</p> <p>何となくAの方が詳しく Bの方も順序がわかる 伝えている気がするよ。 言葉が使われているな。</p> <p>どんな文章で書けばよいのかが、はっきりしないな。 「作り方」の書き方が詳しく知りたいな。</p>	<p>○掲示物を基に、単元の学習計画を確認し、「作り方」のページを完成させていくという見通しを持つことができるようにする</p> <p>□「きつつき」の「作り方」について述べた2つの文章を提示し、どちらがよりよい伝え方をしている文章であるか、現時点での立場を判断できるようにする。 A-①</p> <p>○単元の目的を再度共有し、「作り方」のページをわかりやすく書くという必要感が生まれるようにする。 手立てI</p>	<p>個に応じた指導(▲)</p>
<p>「作り方」をうまく伝える方法をはっきりさせて、おもちゃハンドブックのページに書こう</p>		
<p>2 「作り方」についてうまく伝えている文章はどちらかとその根拠を個や少人数で考える。</p> <p>写真に①や②が書かれてい Aの方がいいと思うよ。 短い文章で書かれて Bの方がいいよ。</p> <p>3 選んだ立場と根拠を全体で交流する。</p> <p>うまく伝えているのはA?B?自分とみんなの考えを比べてみよう。</p> <p>一番の違いは、①～⑤の記号が書かれているかどうかだね。この記号は必要なのかな?</p> <p>あった方が、どの場面なのかがよくわかるよ。 記号がないと、作る人が困ると思うな。</p> <p>写真と文章を合わせながら、どのことを伝えているかがわかるように記号をつけるといいんだね。</p> <p>写真のときの様子を伝えた後に、詳しい長さや回数を伝えた方がよさそうだな。</p>	<p>○個や少人数に「どっちの文章がよい?」「なぜよい?」等について問い、一人一人が立場と根拠を明確にできるようにする。 手立てII</p> <p>○「AとBの文章の一番の違い」について問い、Bには写真にも文章にも①～⑤の記号が入っていないことに着目できるようにする。 手立てII</p> <p>○「なぜ①～⑤といった記号が入っていた方がよいのか」を問い、写真と文章の関連性が高い伝え方について考えることができるようにする。 手立てIII</p> <p>○板書を基に、「時間的な順序」と「構成の順序」を工夫した文章の違いを考えることができるようにする。 手立てII</p>	<p>【読む～ワークシート】</p> <p>▲活動が停滞している児童には、友達の考えを聞いて、考えを整理していくように促す。</p> <p>▲根拠となる言葉を明確にして解決できている児童には、「詳しい様子を表す言葉」との関連を促していく。</p>
<p>写真と文章の記号を合わせて書いた後、ものの長さや回数を詳しく書いていくと、「作り方」をうまく伝えることができる。</p>		
<p>4 全体交流を基に、「作り方」のページを書く。</p> <p>・「A」の文章をヒントに、1年生にとってわかりやすい説明を書いてみよう。</p> <p>・自分で「きつつき」を作ったときのことも考えると、③のときに、コイルが伸びてしまったから、「もう一度1センチになっているか確かめる」という言葉を入れてみよう。</p> <p>・④の写真を見てもらった後、ばねの巻き方のコツをもっと詳しく書いていこう。</p> <p>5 本時における自分や他者の読みについて振り返り、次時への見通しを持つ。</p>	<p>□おもちゃハンドブックの「作り方」(2ページ目)を書く時間を保障し、意識的に「事柄の順序を表す言葉や記号」と「写真」を関連させて表現しながら、本時で獲得した言葉の力の自覚化を図っていくことができるようにする。 A-②</p> <p>○説明の中でも重要な「作り方」のページの書き方がわかったり、内容を蓄積できたりしたことについて価値付けすることで、本時の学びの有用性について一層実感することができるようにする。</p>	<p>▲根拠となる言葉に着目できていない児童には、全体への問い返しや板書の内容を基に理解を促すことができるようにする。</p> <p>【読む～ワークシート】</p>